

パート2：どうなってる？教育現場の「今」

9) Educational Freedom 「教育の自由」



2020年度的一般教書演説中のトランプ大統領（任期 2017年1月20日 - 2021年1月20日）

2020年度トランプ大統領の一般教書演説から：

「インクルーシブな社会を構築するための次のステップは、すべての若いアメリカ人が良い教育を受け、アメリカンドリームを手に入れる機会を得ることです。しかし、あまりにも長い間、無数のアメリカの子供たちが政府主体の公立学校の失敗に巻き込まれてきました。これらの生徒を救うために、18の州が学校選択制度を導入し、その機会を利用できる奨学金プログラムを立ち上げた。このようなプログラムは非常に人気があり、何万人もの生徒が待機しています。その1人はフィラデルフィア市の小学校4年生のジャニヤ・デイビスちゃんです。ジャニヤちゃんの母親、ステファニーさんはシングルマザーです。彼女は娘にもっと明るい未来を与えるために何でもします。しかし、昨年、ペンシルベニア州知事が学校選択制を拡大するための法律に拒否権を行使したため、5万人の子供たちの明るい未来が手の届かないところにいきました。」

「失敗している政府主体の公立学校に自分の子供を送らざるをえなくなる親を無くしてしましましょう。そのため、「教育の自由奨学金と機会」法案を通してください。すべての若者に、学びと成長のための安全で安心の教育環境を備えるべきです。」

翻訳：福田スティーブ利久

トランプ大統領は2兆円の予算を学校選択制のために確保する公約をした。就任直後に教育長官にエリザベス・デヴォス氏を任命した。彼女は教師経験も政治経験も殆どなかった。ただ、教育関係の慈善活動を長年やってきた。その中、デヴォス氏は特に保護者や教師が地域特有のニーズに応える学校が必要と訴えている。特に、学校選択制とバウチャー制度の普及やチャータースクールを増やす活動に携わってきた。